

北見市中心市街地におけるまちなかコミュニティ・ウエルネスライフトータル
サポートを通したまちづくりの展開に向けた調査

報 告 書

平成 17 年 3 月

特定非営利活動法人

北見 NPO サポートセンター

(1) 活動の背景

北見市では

北見市総合計画（愛情豊かな創造的文化都市 21 世紀プラン）

テーマ 感性豊かなひとづくり

愛情あふれるきずなの形成

環境と調和したまちづくり

力強く活力に満ちたまちづくり

信頼と協働のまちづくり

北見市都市計画マスタープラン

「水・緑・光とともに」 - 環境をいかし、まもり、育てる都市の創造

北見市中心市街地活性化基本計画

ソーラー・エコシテイ北見

“ 出会い・発見・賑わい ” の活力あふれる交流ゾーンの創造

等の行政計画に基づき、まちづくりが進められてきました。現在、まちなか居住推進にむけて、北見市住宅マスタープランが策定中であり、中心市街地では民間マンション、公営住宅の建設が進んでおり、次年度より、居住人口の増加が期待されています。そのような状況下で、特に今後増加する高齢者の居住を推進するための生活支援環境の整備が強く求められています。

(2) 活動の経緯

当センターは 2002 年 3 月に設立、7 月に NPO 法人の認証を受けております。設立当初より、中心市街地活性化、地場産業の支援をテーマに活動しており、北見市、地元農協、大学、百貨店、商店街等との協働事業を実施してきました。最近では市内及び近隣町村の NPO との連携による事業も本格化し、福祉、環境、教育等さまざまな切り口でまちづくり事業に参加しています。

これまでのまちづくり調査活動実績

平成 15 年度北見市緊急地域雇用創出特別対策推進事集

「市民交流シルバー面白広場創業支援調査事業」(平成 15 年 12 月～16 年 3 月実施)

(北見市中心市街地活性化推進室より当団体がプロポーザルで受託)

() 調査内容

この調査事業では「中心市街地が、地域コミュニティの中核的役割を果たすことにより、高齢者の方々を中心に多くの方が集う場になっていくことを期待できるのではないか」という視点で、430 名の市民の方にインタビュー形式で 3 タイプの施設について意見聴取しました。

() 調査結果

3つの提案施設、「コミュニティ居酒屋風レストラン」、「チャレンジド・ベーカリー・カフェ」、「コミュニティ託児センター」について必要性、有効性、経済性等について多くのご意見をいただきました。低料金で、多世代交流を楽しみながら、仲間とすごせる空間を望む声は強く、また公共交通機関を利用しやすい、中心市街地に設置を望む声も多く、コミュニティを核にした施設への潜在的な需要はかなりあると予測される結果となりました。

() 調査協力団体

北見市社会福祉協議会、北見市女性センター、勤労青少年ホーム、北見芸術文化ホール、北見市民会館、寿大学、北見市消費者協会、市内老人クラブ等

この調査に基づき、平成16年度に入り、中心市街地の居住推進及び活性化のための具体的なサービス、施設の検討に入り、NPO、企業、行政関係者による、居住推進のための市のプランについての勉強会も重ね、NPOが運営するコミュニティビジネスとしてのモデルを作成しました。今回の活動は本格的な営業に必要な需要を調査する実験事業として提案いたしました。

(3) 活動の目的

今後増加する高齢者を主な対象として、北見市中心市街地に、食事、健康、福祉、生涯学習などの幅広いサービスを各種団体が連携して提供する「まちなかコミュニティ・ウェルネスライフ・サポートセンター」をつくり、閉じこもりがちな高齢者の外出機会を増やし、のんびりと過ごしながらか、適度な運動をおこない、語り合う仲間をつくり、自立し、互いに支え合って、元気に生きていく居住環境を多世代の地域住民が協力、主体的に形成していく可能性の調査を目的とします。

(4) 活動の内容

() 健康づくりサービス

より美しくなる姿勢運動（筋力トレーニング）

実施日時：1月31日、2月5日（14：00～15：30）

参加人数：8名（延べ15名）

実施内容：フィットネス講師によるボールやチューブを利用した転倒防止、生活習慣病の予防のための軽運動、ウォーキング時の姿勢をよくする運動を中心に音楽のリズムに合わせて、楽しく健康づくりを行う結構ハードな講座でした。



健康マージャン教室

実施日時：2月10日、2月11日（13：00～16：30）

参加人数：12名（延べ21名）

実施内容：「賭けない、吸わない、飲まない」を合言葉に、マージャンを健康維持のためのゲームとして楽しむ教室。マージャンは初めてという人がほとんどで、二日間で基本ルールのマスターを目標に、指先の運動とじっくり考えながら、ビギナーズラック続出の楽しい教室でした。



マツケンサンバカーニバル

実施日時：2月12日（14：00～15：30）

参加人数：16名

実施内容：フィットネス講師の指導で、マツケンサンバの振りを楽しく踊る健康づくり教室。若い人からお年寄りまで広い年代の方が参加し、オーレの掛け声があふれる熱気に満ちた講座になりました。



() 美容福祉サービス

ハンドケアレッスン

実施日時：2月2日、2月3日(14:00~16:30)

参加人数：4名(延べ8名)

実施内容：手をきれいに保ち、指先をきれいに見せるための美容レッスン。
講師の方を中心に楽しく、おしゃべりしながらつめを磨いたり肌の手入れを行うものでしたが、知らない人同士の会話が楽しくはずみ、コミュニティの形成に大変参考となりました。



() 趣味・教養の講座

押し花講座

実施日時：2月1日、2月4日(13:00~15:00)

参加人数：6名(延べ10名)

実施内容：落葉を材料に押し花づくりを行いました。植物に詳しい専門の先生の説明を聞き、楽しい会話の中で進められました。軽い痴呆症状の方が娘さんと参加されましたが、大変楽しそうに押し花を作っている姿が印象的でした。



フラダンス講座

実施日時：2月9日、2月16日(13:00~15:00)

参加人数：18名(延べ32名)

実施内容：簡単なステップでフラダンスを踊る講座。

今回の活動の中で人気NO1の講座でした。2回目には衣装持参で来られる方もおり、衣装づくり、レイづくりなど関連したこともできる、幅広い可能性を持った講座でした。



なつかし地図づくり

実施日時：2月15日（13：00～15：00）

参加人数：5名

実施内容：昭和40年の北見市の地図を元にその当時のマチの姿を思い出しながら、語り合う講座。
市内の老舗の金物店から古い道具類をお借りし、記憶を様々な面からよみがえらせる工夫を行いました。昔の姿を伝えたい思いが、伝わる内容でした。



ドールハウス講座

実施日時：2月22日、2月23日、2月24日（12：00～16：00）

参加人数：7名（延べ21名）

実施内容：夢あふれるデザインの精密な家の模型を作る講座。
3日間の長丁場の講座でしたが、皆さん集中されて、大変短く感じました。模型をつくるような講座は男性も参加しやすい印象を受けました。



パソコン教室

実施日時：2月7日、2月8日（13：00～15：00）

参加人数：8名（延べ15名）

実施内容：授業形式ではなく、自分の学びたいことを教える形で進めるパソコン講座。参加者全員のニーズが異なるため、講師、スタッフの対応は大変でしたが、参加者には従来のパソコン教室とは違うスタイルが好評でした。スタッフの確保が課題になりますが、このようなパソコン教室のニーズはかなりあることがわかりました。



楽々ビデオシアター

実施日時：2月17日、2月18日、2月19日（13：00～16：00）

参加人数：5名

実施内容：北見市内にあった映画館のポスターの保存活動団体からの展示ポスターを見ながら、映画を楽しむ講座

上映映画

石原裕次郎 夜霧よ今夜もありがとう

花と竜

吉永小百合 泥だらけの純情

伊豆の踊り子

勝 新太郎 座頭市

兵隊やくざ

映画のポスターは取材に訪れた報道関係の方に受けがよかったが、今回の講座の中では申し込みが一番低調であった。ビデオ鑑賞は時間つぶしの要素が強いため、講座のない日や、つなぎ役の材料として考えたほうが良いようである。

() 食事サービス

コミュニティ利き酒パーティー

実施日時：2月24日（17：00～20：00）

参加人数：18名

実施内容：今回の講座に参加した講師や利用者の親睦パーティー

今回の活動に参加したことを縁に、その輪を広げて、今後の事業展開へのアイデアを楽しく語り合うことができました。

今回は食事の提供ができず、飲み物の提供だけであったので、食事を提供する際のメニュー等について多くの方から意見をいただくことができました。

() 情報サービス

携帯電話メル友づくり講座

実施日時：2月4日、2月11日、2月18日(16:00~17:00)

参加人数：9名(延べ15名)

実施内容：携帯電話の使用方法、メールの操作方法を学ぶ講座。

携帯を持っていても、使いこなせない人、まだ持っていない人など携帯電話に対する関心はかなり高いことがわかりました。協力した企業の方も驚くほど、潜在需要がある事が確認できました。



() 生活支援情報サービス・相談業務

年金相談

実施日：2月3日、2月10日、2月17日(16:00~17:00)

参加人数：6名

実施内容：年金全般の相談業務。

参加者の関心が講座関係に向いていたため、参加者は少なかったが、色々なことをやっている場所だという認識をしてもらえれば、気軽に相談できる場所として定着する可能性は高いと感じられた。



リフォーム相談

実施日：2月2日、2月9日、2月16日(16:00~17:00)

参加人数：5名

実施内容：住宅のリフォームについての相談業務。

住宅のリフォームよりも、家の中の不便な状況についての相談が多く、高齢者の住環境整備には総合的に取り組む必要性を感じた。



各種サービス利用者アンケート調査結果

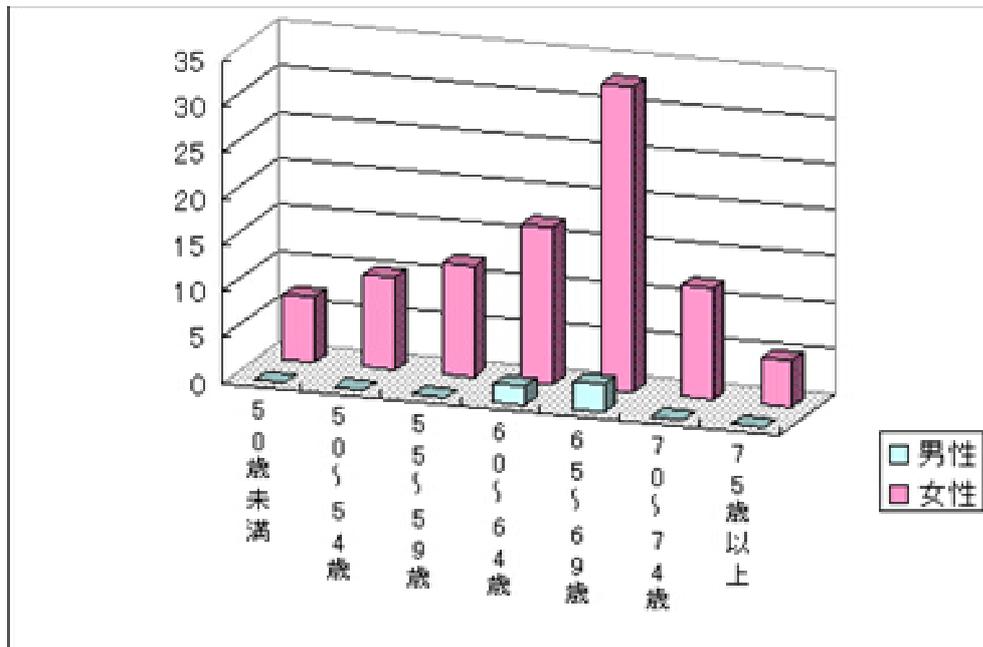
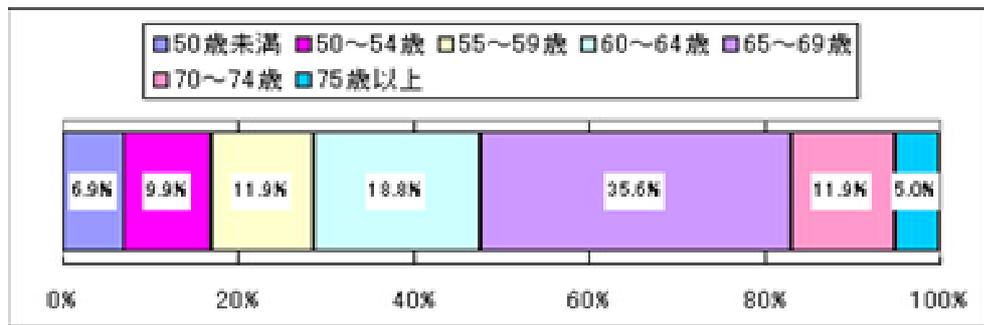
調査時期：平成 17 年 1 月 31 日～2 月 24 日

対象者：各種サービス利用者

回 収：アンケート回収件数 101 人

1 性別・年齢

	50 歳未満	50～54 歳	55～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70～74 歳	75 歳以上
男性	0	0	0	2	3	0	0
女性	7	10	12	17	33	12	5
合計	7	10	12	19	36	12	5

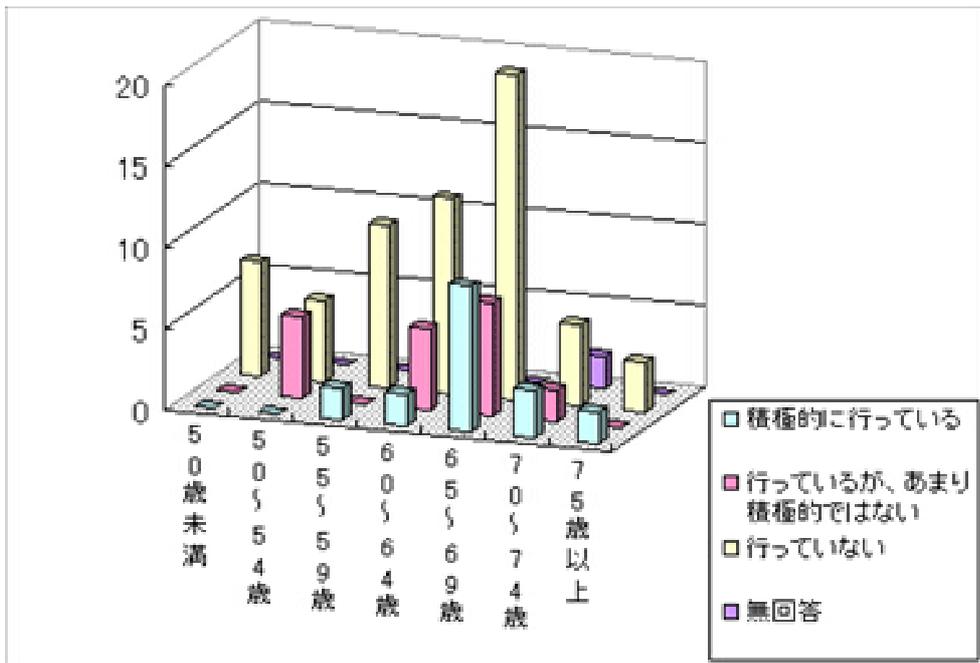


分析・評価

利用者は圧倒的に女性が多く、男性はパソコン教室となつかし地図づくりの2つの講座で5名の参加があっただけであった。そのうち3名は奥さんに連れられて参加してきており、この種の施設では、まず女性に評価を受ける内容でスタートし、徐々に男性向きの内容にしていくスタイルが有効であると考えられる。年代別では60代が過半数を占め、行動的で元気な高齢者が多いことが再認識された。

2 町内会やボランティアなどの活動(高齢者クラブ、寿大学、シルバー人材センター、仕事を含む)を行っていますか。

	50歳未満	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
積極的に行っている	0	0	2	2	9	3	2
行っているが、あまり積極的ではない	0	5	0	5	7	2	0
行っていない	7	5	10	12	20	5	3
無回答	0	0	0	0	0	2	0

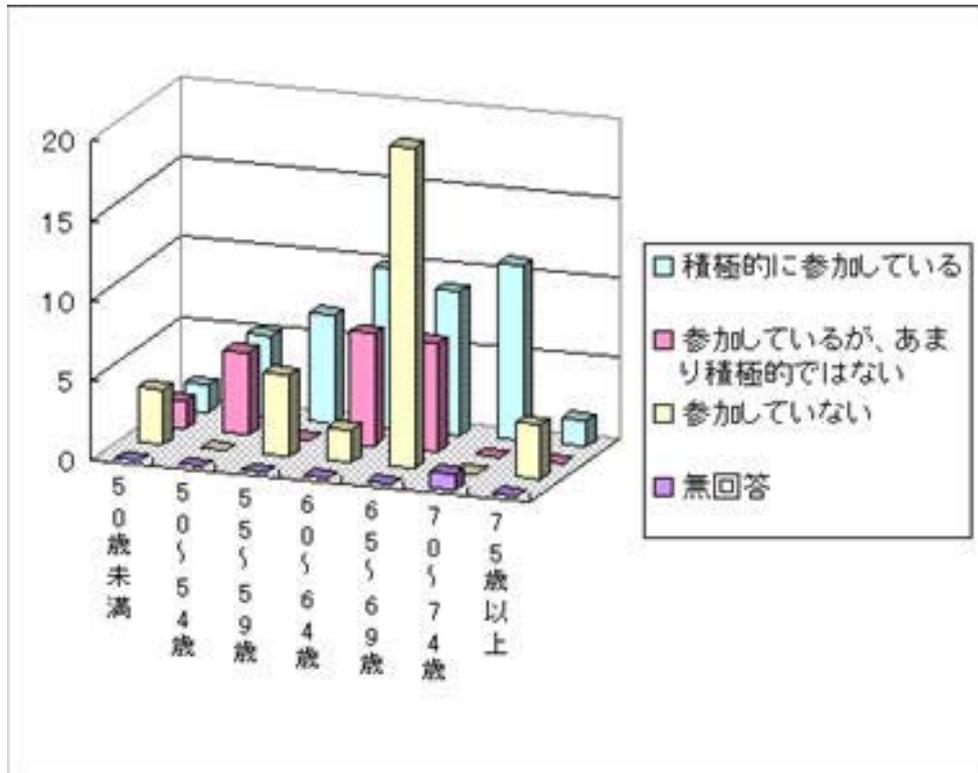


評価・分析

今回の参加者へのヒアリングで、普段は家からあまり出ない人が、様々なサービスの提供があるということで、興味を持ち、参加したという事例が多く見受けられた。アンケート結果でも、仕事を含め、あまり外にでる機会のない人たちの関心を集めたことがわかる。今回のような複合的なサービスを展開している場所がないため、選択肢を多く持ち、かつ利用者の共感するテーマ選定を行えば、潜在需要の掘り起こしは十分可能であると推察される。

3 趣味やスポーツ、学習活動に参加していますか。

	50歳未満	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
積極的に参加している	2	5	7	10	9	11	2
参加しているが、あまり積極的ではない	2	5	0	7	7	0	0
参加していない	3	0	5	2	20	0	3
無回答	0	0	0	0	0	1	0

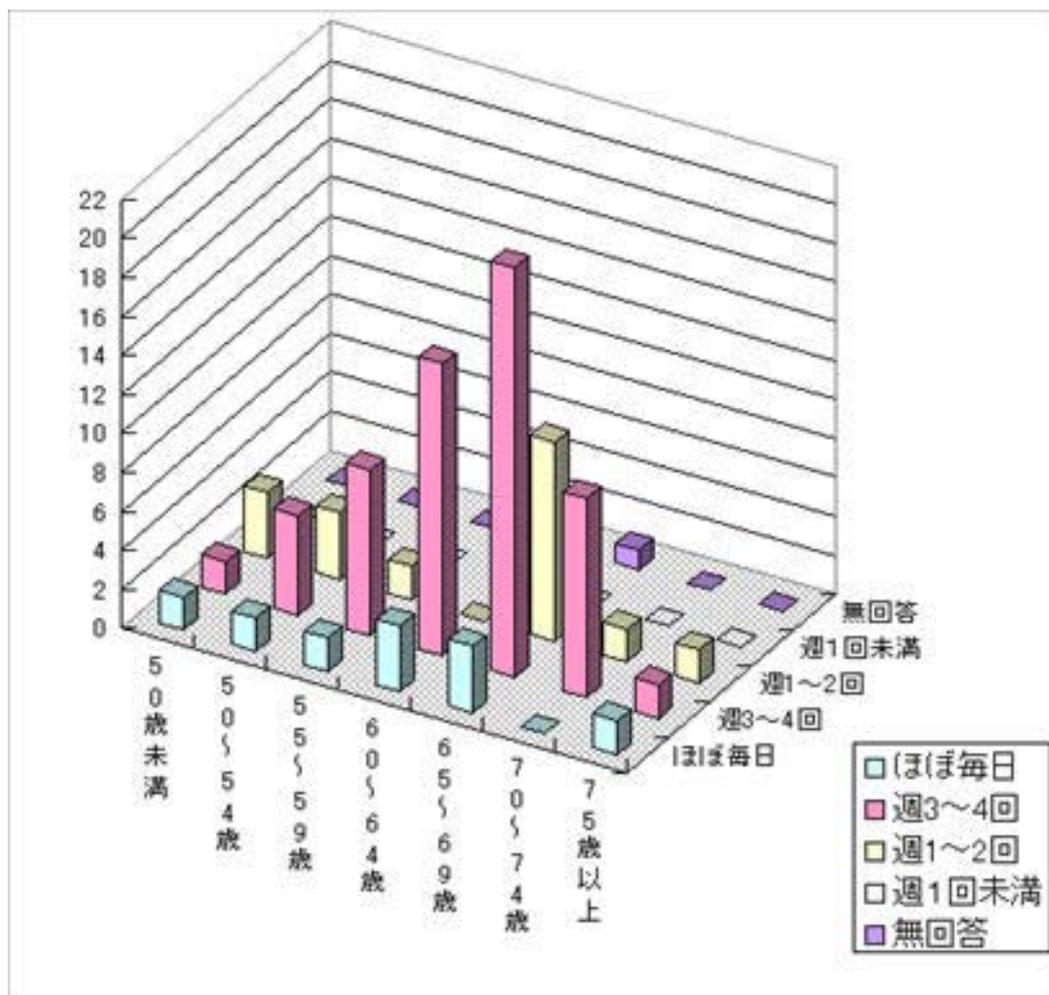


評価・分析

このアンケート結果でも、前の設問同様、今まで健康づくりや文化活動に参加していない人が参加してきていることがわかる。個別のヒアリングでも、従来の様々な講座、教室への不満を多く聞いた。代表的な不満は、価格の問題、老人クラブへの抵抗感、自分のペースで学べない講座の進め方等であった。今回の講座、教室では、特にコミュニティの形成をどのように図るかに配慮して内容を組み立て実施したが、少人数で実施した講座では、マイティーチャーを求めている姿がよくわかった。パソコン教室はマンツーマンに近いスタイルで実施したが、教える側のペースではなく、学ぶ側のペースで進めていくのが大好評であった。年をとってから覚えることは、学校の授業のようにはできないので、それぞれのペースに合わせた教え方を考えてほしいとの意見が多く聞かれた。多様なニーズにこたえる難しさはあるが、教える側にも技術だけではない、高齢者に対する深い愛情が求められていると感じられた。

4 外出の回数はどのくらいですか。

	50歳未満	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
ほぼ毎日	2	2	2	3	3	0	2
週3～4回	2	5	9	15	21	10	2
週1～2回	3	3	2	0	10	2	2
週1回未満	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	1	1	0	0

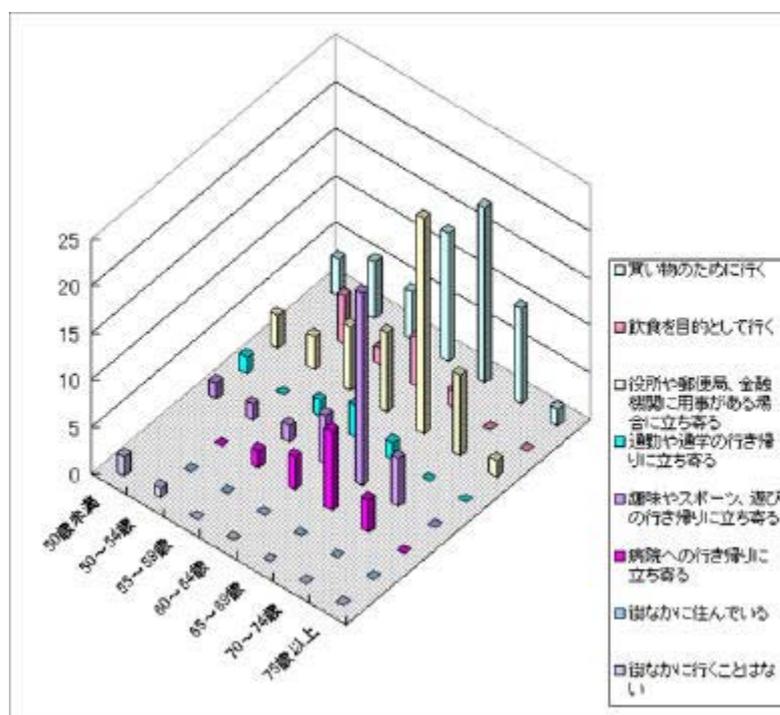


評価・分析

北見市は大きな病院が中心市街地に多いこともあり、平日まちなかにくる高齢者が多く、週末は人通りが少なくなる傾向にある。平日の講座、教室開催を希望する声が多く、祝日、土日は出てきたくない傾向が強い。今回の参加者は市内各所から参加してきているため、このような結果になったと推察されるが、まちなかに定住するひとたちを対象にするならば、いつでも楽しめる環境をつくることも重要であり、どのような運営をするか今後の検討課題のひとつとなった。

5 あなたは、どのようなときに街なかに行きますか。又は街なかには立ち寄りますか。

	50歳未満	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
買い物のために行く	4	6	5	14	19	10	2
飲食を目的として行く	0	5	2	5	2	0	0
役所や郵便局、金融機関に用事がある場合に立ち寄る	3	3	7	9	23	9	2
通勤や通学の行き帰りに立ち寄る	2	0	2	3	2	0	0
趣味やスポーツ、遊びの行き帰りに立ち寄る	2	2	2	5	20	5	0
病院への行き帰りに立ち寄る	0	0	2	3	9	3	0
街なかに住んでいる	0	0	0	0	0	0	0
街なかに行くことはない	2	1	0	0	0	0	0

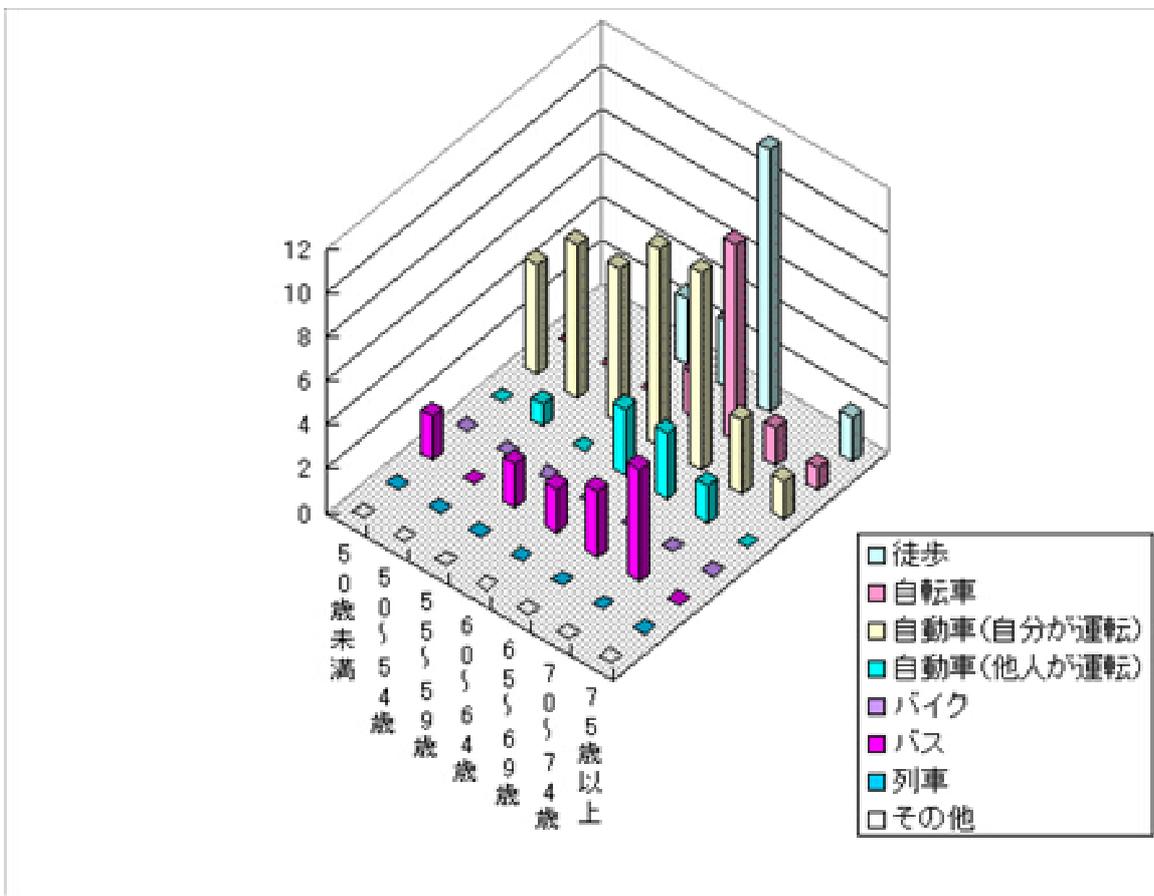


評価・分析

具体的な来訪目的を聞いているが、立ち寄り先は病院、役所、金融機関が中心であり、まちなかのスーパーは日曜日が定休日で、買い物客も含め平日に人の多い要因となっている。

6 あなたが、街なかへ行くための主な交通手段は何ですか。

	50歳未満	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
徒歩	0	2	3	3	12	0	2
自転車	0	0	0	2	9	2	1
自動車(自分が運転)	5	7	7	9	9	3	2
自動車(他人が運転)	0	1	0	3	3	2	0
バイク	0	0	0	0	0	0	0
バス	2	0	2	2	3	5	0
列車	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0

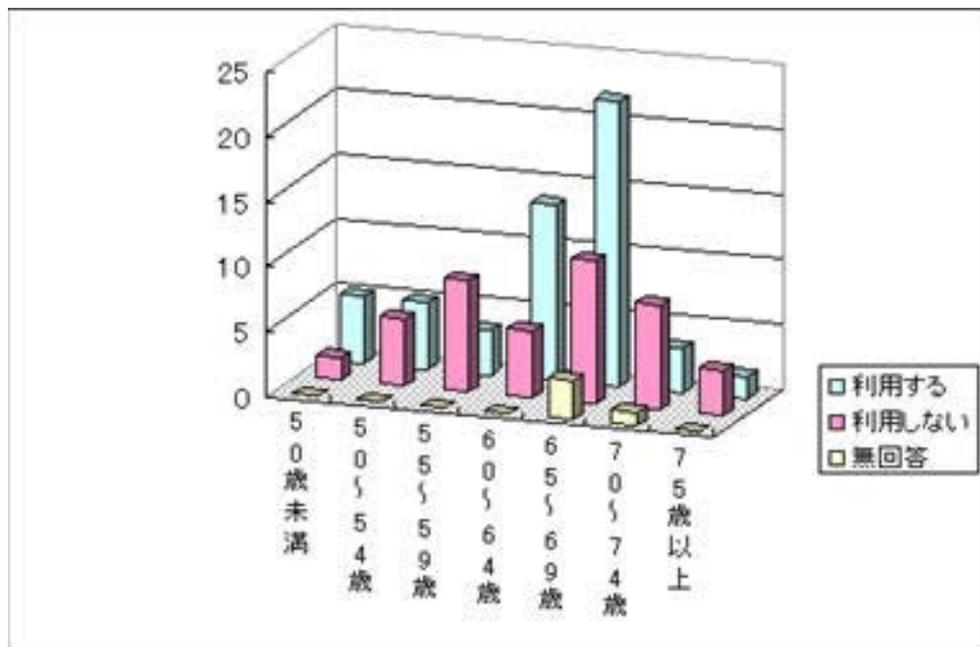


評価・分析

約半数の方が車を利用しているが、60代後半では、車、自転車、徒歩がほぼ同じであった。今回の調査では駐車場の問題がそれほど重要視されていない傾向と合わせ、高齢者を対象にした施設では、商店街が衰退の大きな原因として駐車場問題を捉えているほど大きな影響はないようである。

7 送迎サービスがあれば利用しますか。

	50歳未満	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
利用する	5	5	3	14	22	3	2
利用しない	2	5	9	5	11	8	3
無回答	0	0	0	0	3	1	0

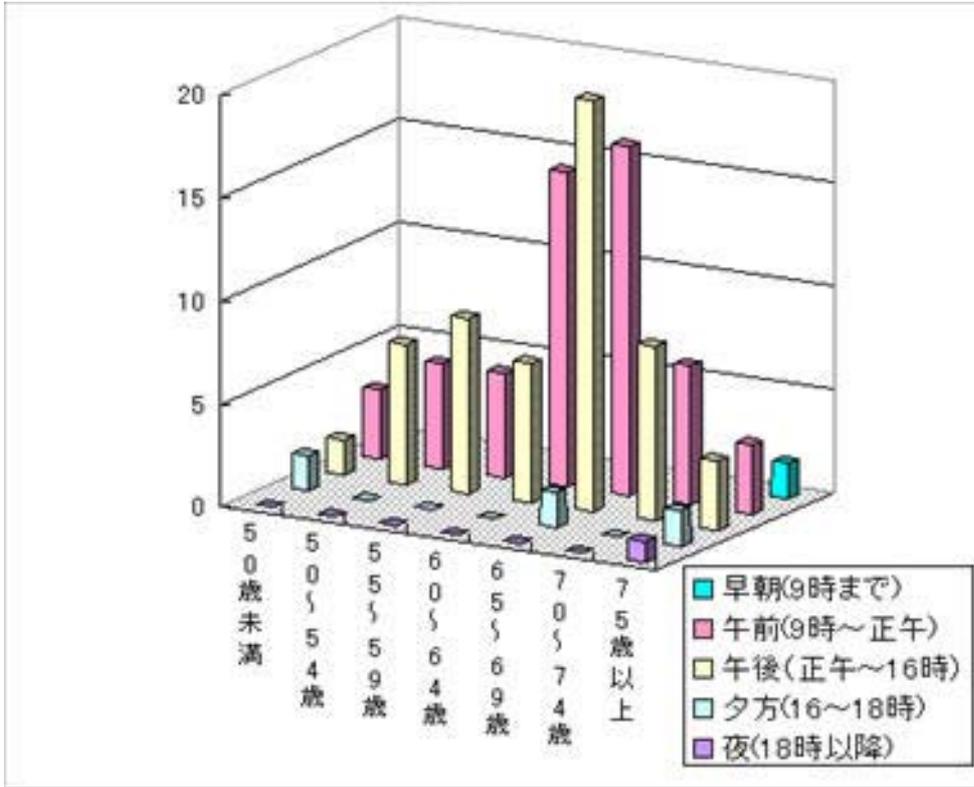


評価・分析

この設問は、最近北見市内で、企業、社会福祉法人、NPO法人等が福祉移送サービスを開始していることを受けて行った。北見市では70歳以上の高齢者にバスの無料バスが支給されており、今回調査でも、バスが無料なので、まちなかに出てくるという方がおられた。移送サービス業者との連携で、顧客の広がりも期待でき、トータルの価格を考慮しつつ、より便利な利用環境を整備する手段として、移送サービスを検討する必要がある。

8 街なかによく行く時間帯はいつですか。

	50歳未満	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
早朝(9時まで)	0	0	0	0	0	0	2
午前(9時～正午)	3	5	5	15	17	7	3
午後(正午～16時)	2	7	9	7	20	9	3
夕方(16～18時)	2	0	0	0	2	0	2
夜(18時以降)	0	0	0	0	0	0	1

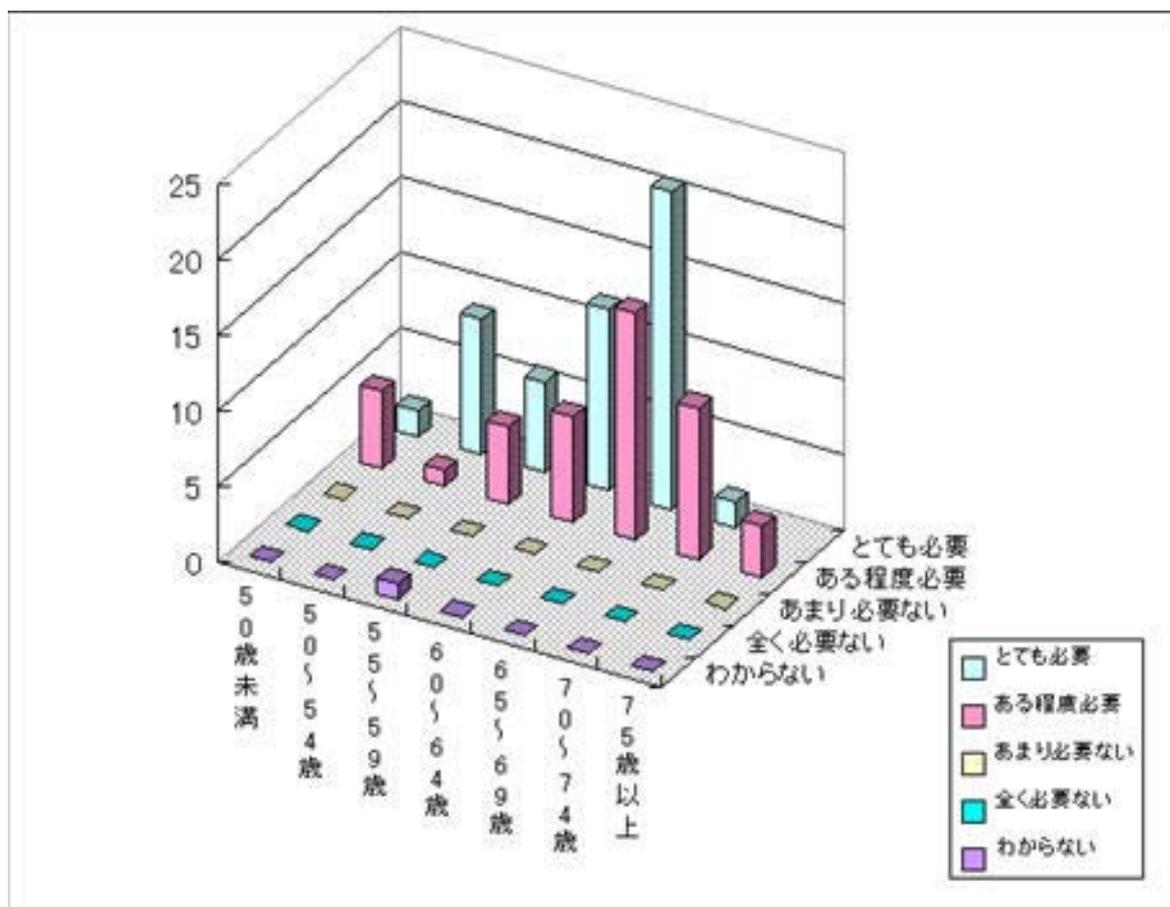


評価・分析

時間帯としては、午前9時～午後4時の時間帯が大多数であった。女性が多かったこともあるが、夕方の講座、教室は参加しにくいとの意見が多く出されており、講座の開催時間帯としては、10時～12時、13時～16時が適当と推察される。今回は男性の参加者が少なく、夜の時間帯の需要については調査できなかったが、コミュニティの形成を目的とした時、夜の時間帯にも講座だけではなく、パーティーや交流会のような内容のものが必要と考える。

9 高齢者交流施設は、必要だと思いますか？

	50歳未満	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
とても必要	2	9	6	12	21	2	2
ある程度必要	5	1	5	7	15	10	3
あまり必要ない	0	0	0	0	0	0	0
全く必要ない	0	0	0	0	0	0	0
わからない	0	0	1	0	0	0	0

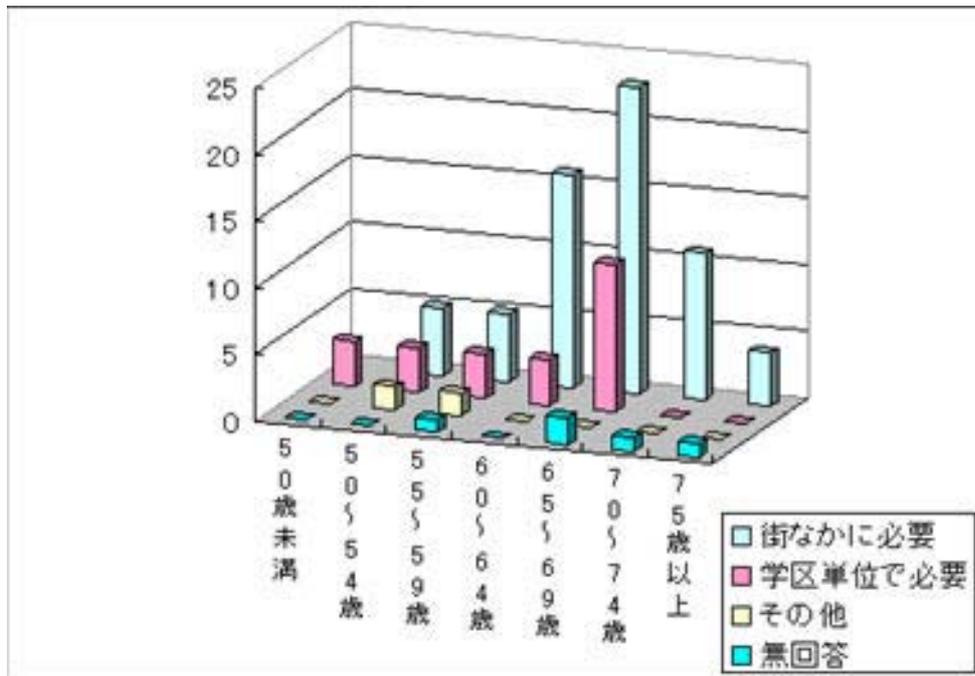


評価・分析

高齢者を対象にした今回のような施設の必要性は感じてもらった結果となった。参加者からは、今回実施しなかったさまざまな講座、教室の開催要望が寄せられているので、講師の確保、養成を検討して、細かなニーズに対応していく必要性を感じている。

10 高齢者施設はどこに必要ですか？

	50歳未満	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
街なかに必要	3	5	5	16	23	11	4
学区単位で必要	3	3	3	3	11	0	0
その他	0	2	2	0	0	0	0
無回答	0	0	1	0	2	1	1

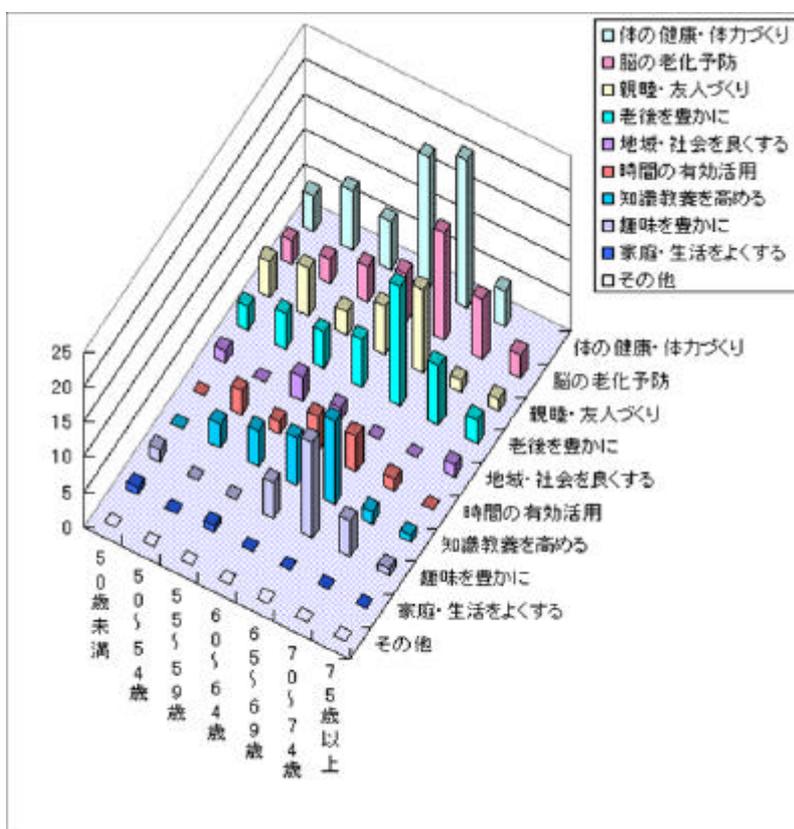


評価・分析

今回の活動は、中心市街地で実施したが、北見市（人口11万）程度の規模のまちであれば、3箇所～4箇所程度は必要ではないかと考える。講座の講師を確保する面でも、この程度の数があれば、確保しやすくなる。気軽に大勢の方に参加してもらうためにも、将来的に数を増やしていけるようにしていきたい。

1 1 高齢者交流施設に期待するものは何ですか？

	50歳未満	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
体の健康・体力づくり	5	9	7	19	21	5	2
脳の老化予防	3	3	5	7	15	9	3
親睦・友人づくり	5	7	3	7	12	2	2
老後を豊かに	3	5	5	7	17	9	3
地域・社会を良くする	2	0	3	2	0	0	2
時間の有効活用	0	3	2	5	5	2	0
知識教養を高める	0	3	5	7	12	2	1
趣味を豊かに	2	0	0	5	14	5	1
家庭・生活をよくする	1	0	1	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0

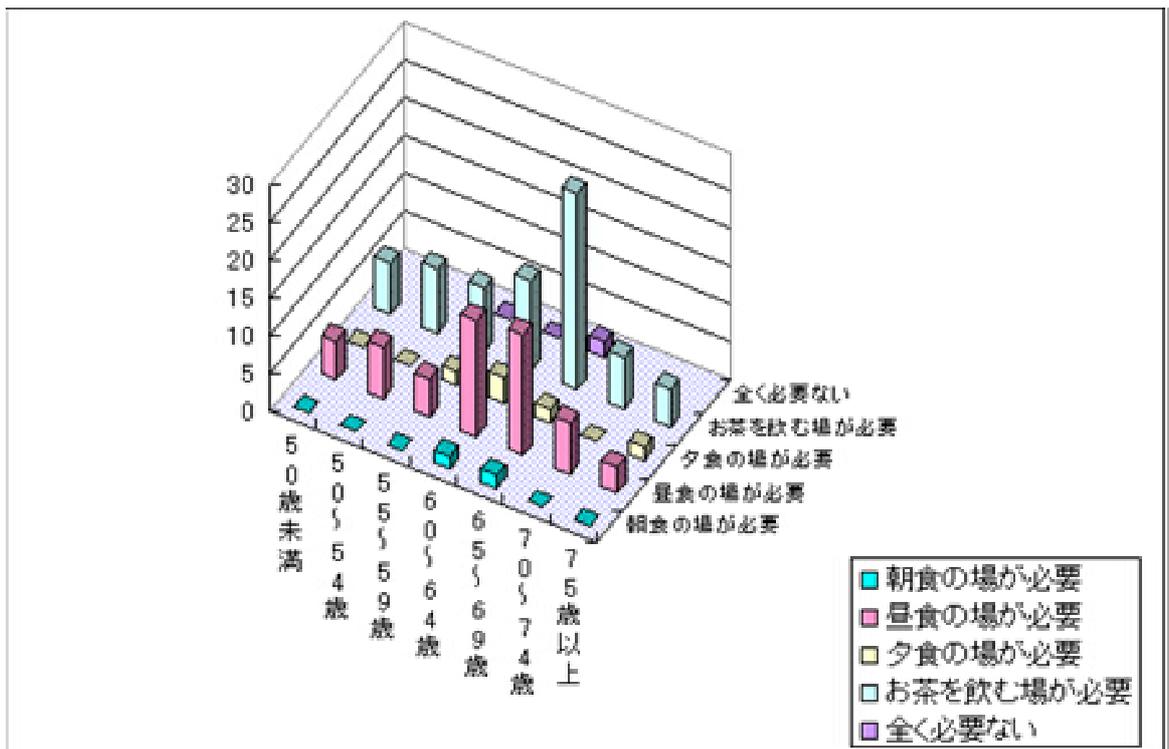


評価・分析

参加者の目的としては、健康維持、友人づくりが中心となっているが、ひとり暮らしの世帯が増えていく中で、まわりと何らかの係わりを持って生きていきたい人が、今回のような活動に参加してきている。一箇所ですさまざまなサービスを受けられるメリットは、高齢になればなるほど大きいと推察される。終の棲家としての居住を考える時、困った時に何でも相談できる、駆け込み寺的な要素を持った施設が近くにあることは大変重要な要素であると考えられる。

1 2 仲間との食事の場は必要ですか？

	50歳未満	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
朝食の場が必要	0	0	0	2	2	0	0
昼食の場が必要	5	7	5	15	16	7	3
夕食の場が必要	0	0	2	3	2	0	2
お茶を飲む場が必要	7	9	9	12	26	7	5
全く必要ない	0	0	0	0	2	0	0



評価・分析

最後に今回はできなかった食事の提供について聞いたが、昼食やお茶の場が強く求められている。参加者へのヒアリングでも、講座の前後におしゃべりをしながら、食事をしたり、お茶を飲んだりしたいとの希望が出されており、メニューも含めて、今後の検討課題として取り組んでいきたい。

(4) 活動の成果

今回の活動の成果として次の点があげられる。

「まちなか居住」の促進を図るためには、利便性や快適性に富んだ「住み心地のいい」居住環境が重要であり、居住者にとっての住み心地のよさとは、便利で快適な住居や施設、街並みなどの物的環境だけで決まるわけではなく、そこに住む人々が楽しく、安心して暮らせる人的環境が必要であり、互いに支えあい、親しく交わる人々の絆、交流、すなわちコミュニティの重要性を参加者に認識してもらえたことである。

現状の地域社会における高齢者のコミュニティ形成機会が乏しい中で、人々がいきいきと楽しく、安心してすごせる暮らし(ウェルネスライフ)の場を創造するために、そこに住み、集う人々のコミュニティの形成、さらには生活全般をきめ細かくサポートできる仕組みをつくりだすことが重要な鍵となると考え今回の活動を実施した。今回の活動では、そこに人々が集い、ふれあい、楽しむための仕掛け、プログラム(ソフトウェア)が重要であった。プログラムが人々をひきつける魅力に富んだものであることはもちろんであるが、いかに魅力的なプログラムを用意しようとも、提供者(接客担当者)と利用者(顧客)の相互作用が生まれなければ、コミュニティ形成は難しく、単なる講座、教室で終わってしまうことがわかった。NPO や住民こそがコミュニティ・サービスを主体的に担うことで、コミュニティの形成を進め、楽しい居住環境が整備されることが認識された。

今回のようなコミュニティ・サービスの役割は、一方で住民を利用者(顧客)ととらえ、これをサポートし、まちに暮らすことの満足度を向上させていくことにあるが、他方では、住民にサービスの提供者として参加する機会を提供する役割をも果たすことにある。今回の活動ではサービス提供者、利用者ともに満足する内容でおこなうことができた。利用者満足と提供者満足をともに実現することを通じて、地域に暮らす人々に住み心地のよい居住環境と生きる喜びを提供し、ともに支えあい、いきいきと楽しく暮らすことのできる活力あるまちづくりにつなげていく機運を醸成することができた。

(5) 今後の展開

今後の展開としては、今回実施した実験サービスを含む、元気な高齢者のための複合型店舗の運営を目指す NPO が 5 月に認証を受け、北見市中心市街地に出店する予定であり、北見 NPO サポートセンターとしても、今までの調査資料や今回の活動の調査結果を踏まえ、講座の種類、内容等についてアドバイスをおこない、また今回支援していただいた、北見市都市建設部建築課とも連携して、まちなか居住のためのソフト事業を推進していきたいと考えている。今回協力していただいた、各 NPO、企業も実験事業の結果を参考にし、本格的にシニアビジネスに参入しようとしており、その効果が期待される。

(6) 活動のポイント

活動の人材

今回の活動に際しては、北見市内および周辺の NPO の多大な協力を得ており、講師の多くは NPO からの紹介で参加した。アドバイザーとして日本大学商学部東教授にさまざまな助言をいただいた。また北見市内で個々に活動している、まちづくりに関心の高い人たちにもこえ掛けし、健康マージャン、ドールハウス講座の講師をお願いした。携帯電話講座、リフォーム相談は北見市内の企業に協力していただき、年金相談は社会保険労務士が中心となった NPO が行った。パソコン教室は市内の大学生が中心となって指導にあたり、施設の運営は高齢者支援の NPO からの人を中心に行った。以上のように今回の活動に対して、NPO、企業、大学、市役所、大学生、主婦、高齢者などさまざまなひとたちがかかわり、まちなか居住を推進するための市民参加型施設モデルとして機能することができた。

活動のための資金調達

今回の活動では、支援・協力していただいた NPO、企業に広報活動の資金面をお願いした。広報活動の結果として、多くの参加者を得ることができ、今回のような施設が、顧客獲得の場として有効であることが理解され、今後の展開において、資金面を含む様々な支援を受けやすい環境をつくることができた。一企業の力だけではなく、複数の企業、NPO が協力することで新たな営業展開の可能性が広がった。

活動のネットワーク・支援

今回の活動は、NPO のネットワークを中心に行政、企業、大学の支援で行うことができた。このようにネットワークを有効に生かすことができたのは、当サポートセンターが北見市内およびその周辺の NPO の多くの設立にかかわってきた結果であり、各 NPO の持つ人材、機能が生かされる環境が整ってきた表れであると考えられる。今後も NPO、企業、行政の連携に取り組み、市民に歓迎される事業の展開を目指したい。